

中央手術部

1. スタッフ

部長(教授) 小西 宏明
 副部長(准教授) 五十嵐 孝
 (准教授) 堀江 久永
 (医員) 川上 賢幸
 岡田 修
 茂木 康一

2. 中央手術部の紹介

自治医科大学中央手術部は昭和47年に開設され、平成14(2002)年8月新棟竣工とともに新館手術室へ移転し現在に至っている。手術室の構造は回収廊下型となっており、清浄度クラス1000の手術室4室とクラス100の手術室が13室の合計17室で構成されている。その後産科専用手術室2室、さらに子ども医療センターに小児心臓外科手術室1室が追加されている。

3. 中央手術部の特徴

1) 診療記録の電子化

2002年の新棟移転にともない、病院情報システム構築の第一歩として、まず麻酔記録の電子化がおこなわれ(J-CAN:Jichi-Clinical Advanced Network System)が可動している。2006年からは院内の電子カルテシステム(JUMP:Jichi Medical University Universal Medical Information Program)と連携しており、手術申し込み、手術記録、保険情報記録、看護記録などがすべて一元管理となった。ただし物流システムとのオンライン化は行っていない。

2) 中央材料室

中央手術部に併設される形で中央材料室を備えており、選任の看護主任を配置し、手術機器の点検、消毒業務の指導を行い、中央手術部との密接な関連のもとに運営されている。

3) 先端医療機器の設置

現代の進化する手術に対応するべく、医療機器を毎年更新、整備している。手術室にはモニター用カメラが設置され手術室内の状況をコントロール・ルームで監視することができ、またこれとは別に手術野の映像をプラズマディスプレイに表示し、臓器移植手術の進行の調整や学生・研修医の教育、学会の発表などに用いられている。

4. 中央手術部の現況

平成19年4月から8月の手術件数の増加(推定年間8,921件ペース)が顕著となり、同年9月から様々な方策を講じた。平成20年春頃からは件数の増加には歯止めがかかり、最終集計で平成20年度初めて減少に転じ、8,567件となった。良性疾患手術やリスクの少ない手術を中心として地域の病院への連携が進んだものと考えられるが、一方では合併症をかかえたりリスクの高い手術や、長時間手術が増加しており、特に平成21年1月からは午後5時以降の手術残数が平均12件と平成19年よりも悪化している。

当院に求められる質的、量的な医療ニーズに対応でき、なおかつ医療安全の確保と職員の健康維持を図ることが重要と考える。

手術件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H18年度	638	629	699	699	707	676	738	725	734	661	664	763	8,333
H19年度	688	651	724	773	782	638	768	792	667	701	741	747	8,672
H20年度	717	666	725	779	734	665	754	656	688	679	713	791	8,567